

2019年9月 NICが日経ニューオフィス賞「クリエイティブ・オフィス賞」 「近畿経済産業局長賞」を受賞しました

当社の研究開発拠点であるNICCA イノベーションセンター (NIC) が「第32回日経ニューオフィス賞」において「ニューオフィス推進賞 クリエイティブ・オフィス賞」及び「近畿ニューオフィス推進賞 近畿経済産業局長賞」を受賞しました。NICが、感性を刺激し創造性を高める働き方を誘発する場であることや、新たなイノベーションを生み出す場づくりへの積極的な働きかけを行っていることを評価いただきました。

※日経ニューオフィス賞：1988年より、一般社団法人ニューオフィス推進協会と日本経済新聞社が共催している先進的なオフィスづくりを審査・表彰する賞。後援は経済産業省と日本商工会議所。

オフィス賞(近畿ブロック)表彰式



近畿ニューオフィス賞表彰式にて受賞企業代表で挨拶をする江守社長

2019年11月 香港日華化学が Bangladesh 繊維産業での人材育成コンテスト“TTH(※)”に参画

Bangladesh の首都ダッカに駐在事務所をおく当社子会社の香港日華化学有限公司は、テキスタイルの総合業界誌を刊行する Bangladesh Textile Today が企画運営を行う“Textile Talent Hunt (TTH) 2019-20”への参画及び寄付金の提供を表明しました。同国では、国を挙げて重要視する繊維産業の発展のために優秀な人材の育成に力を入れており、TTHはその取り組みのひとつです。

今後も当社グループは、これまでに培った繊維業界での知見と技術を活用し、Bangladesh の繊維産業のサステナブルな発展に貢献してまいります。

※Textile Talent Hunt (TTH)：Bangladesh の繊維学科を有する大学から繊維業界の将来を担う人材を選出するコンテスト。彼らの研究題材をもとに充足した各プロジェクトに、タイアップ工場とメンター(指導者)がトレーニングや技術指導を提供し、現場での研究や実習を通じた人材育成を行う。



TTHとの共同活動に関する覚書締結

2019年11月 株主様向け見学会を開催

株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくため、2018年に引き続き2回目となる「NIC及び化粧品工場見学会」を開催し、抽選により当選された68名の株主様及び同伴者様にご参加いただきました。

社長挨拶、会社概要紹介の後、NICにて技術展示コーナーやフリーアドレス制のオフィスなど、オープンイノベーションを目指す研究開発拠点としての機能と設備をご案内し、化粧品工場や当社の歴史を展示している創業記念館もご見学いただきました。

今後も継続的に見学会を開催するなど、株主様との双方向コミュニケーションの充実を図ってまいります。



吹き抜け空間からNIC内の構造特徴をご説明

2019年12月 「ISO45001」(*)の認証取得

日華化学本社において、労働安全衛生マネジメントシステムに関する国際規格「ISO45001」の認証を取得いたしました。職場の労働安全衛生改善に継続的に取り組むことにより、業務の効率化、社員のレベルアップ等組織的な改善が進み、労働災害リスクを低減できるだけでなく、お客様からのさらなる信頼に繋がると考えております。

今後も、社員の安全・健康を第一に、職場の安全衛生面でのさらなる水準向上に繋げ、労働災害ゼロを目指してまいります。

※ISO45001：労働の安全を確保する環境づくりのための国際的な規格。認証取得により従業員が安全に働くことができる環境が整った企業と認められたことになります。



ISO45001の認証書

株主優待品の発送のご案内(2020年春贈呈品)

当社では株主の皆様の日頃のご支援にお応えするために、また当社の事業に対するご理解をより深めていただきたく株主優待制度を導入しております。

2019年12月31日時点で対象となる株主様に、右記の優待品をお送りしましたので、どうぞご使用ください。

- 100株以上保有 QUOカード1,000円分
- 1,000株以上保有 QUOカード1,000円分+デミ コスメティクス ヘアケア商品

1,000株以上保有の株主様

100株以上保有の株主様

QUOカード 1,000円分

〈写真〉
メンズブランド「エレベート」ヘアケアシリーズ

デミ コスメティクス
ヘアケア商品
「エレベート」
左：スカルプアクティブ
シャンプー—250ml
¥3,000(税抜)
右：スカルプジェム★
150g ¥2,200(税抜)
※メーカー希望小売価格
★頭皮マッサージ用ジェル

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部
定時株主総会	毎年3月下旬	電話照会先	フリーダイヤル 0120-782-031 取次事務は三井住友信託銀行の本店および 全国各支店で行っております。	一単元株式数	100株
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日			証券コード	4463
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4-1 三井住友信託銀行株式会社				

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について】株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社へ口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申し出ください。【未払配当金の支払について】三井住友信託銀行にお申し出ください。

表紙写真説明 ▶【左上】今回の株主優待品である2019年発売のメンズ向け新ヘアケアブランド「エレベート」【右上】当社クリーニング向け薬剤が使用されるホテルのシーツ類
【中央】新工場が稼働したニッカコリアの金会長(右)と森下社長(左)【左下】日経ニューオフィス賞を受賞したNIC吹き抜けのオフィス空間【右下】Bangladesh TTHとの覚書締結後の記念写真

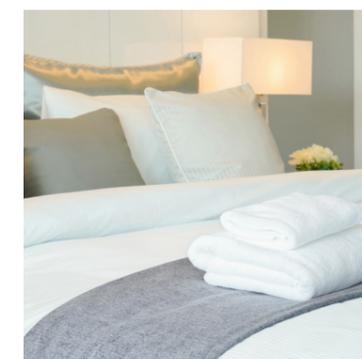
GLOBE

グローブ

事業環境の変化が業績に影響及ぼすも 経営基盤を強化し、着実に事業を推進。



事業概況のご報告
TOP MESSAGE



GLOBAL REPORT

韓国子会社ニッカ コリアに
新工場が竣工



NEXT INNOVATION

お客様の利便性を追求し
リネンサプライ市場で信頼構築



TOPICS



株主の皆様へ



代表取締役社長
江守康昌

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

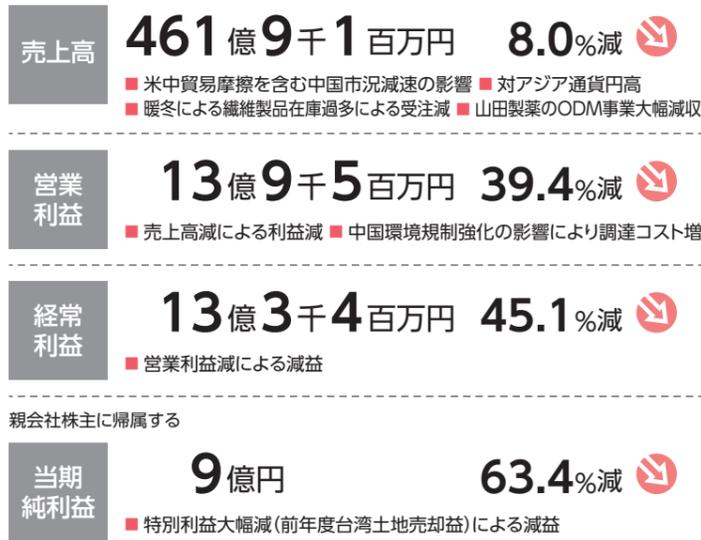
2019年12月期(第106期)通期決算概況についてご報告申し上げます。

中期経営計画「INNOVATION19」の最終年度である2019年度の業績は、「INNOVATION25」の達成に向けた経営基盤の構築が進んだ一方で、当社グループを取り巻く環境変化の影響を大きく受け、前年同期比で売上高は8.0%減、経常利益は45.1%減と大変厳しい結果となりました。

2020年は新たな中期経営計画期間の初年度となりますが、新型コロナウイルスの感染拡大により、過去に類を見ない大変厳しい状況となっております。そのため、新中期経営計画の公表を延期し、当事業報告書につきましても当該内容は盛り込まず、その影響度を慎重に精査したうえ、改めて次号以降にてご報告させていただくことといたしました。このような状況下ではありますが、循環型社会への移行やデジタル革新など激変する経営環境をビジネスチャンスへと昇華し、社会から求められる価値を提供する事業に注力することで長期的な成長の実現と一層の企業価値向上を図ってまいります。

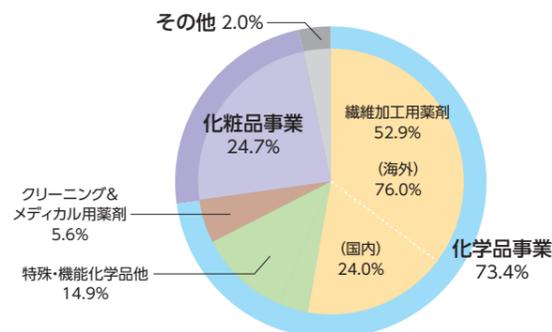
株主の皆様におかれましては、何卒ご理解頂き、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

▶ 2019年12月期(第106期)決算概況

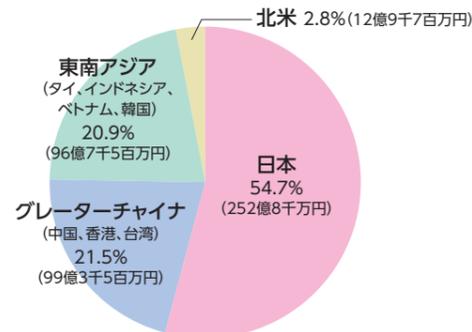


※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
※%表示は前会計年度比です。

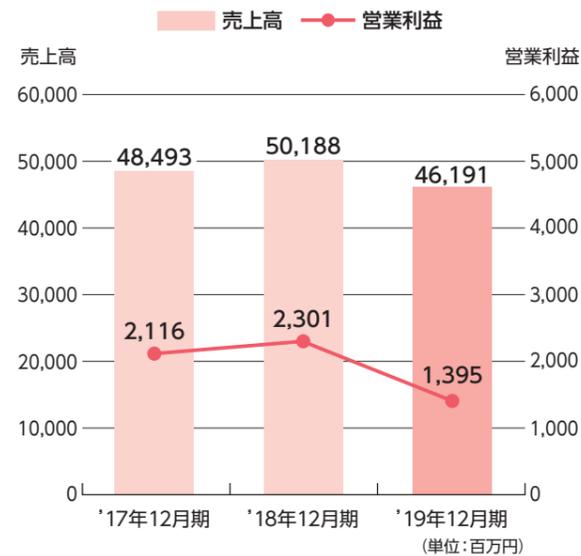
【事業別売上高比率】



【地域別売上高比率】



【売上高・営業利益の推移】



化学品事業



繊維化学品

- 繊維加工の一連の工程(精練・漂白・染色・捺染・仕上げまで)を網羅する多様な薬剤



クリーニング・メディカル用薬剤

- 業務用クリーニング・リネンサプライ業界向け薬剤
- 医療用器具・福祉分野用洗浄剤等



先端材料

- 機能性人工核酸、炭素繊維複合材料、精密制御ポリマー、機能性ナノ材料、ナノダイヤモンド応用製品等



特殊化学品

- 感熱紙用顔色剤、AOA等の有機合成化学品
- 製紙用薬剤、金属・ゴム・電子材料用界面活性剤等



機能化学品

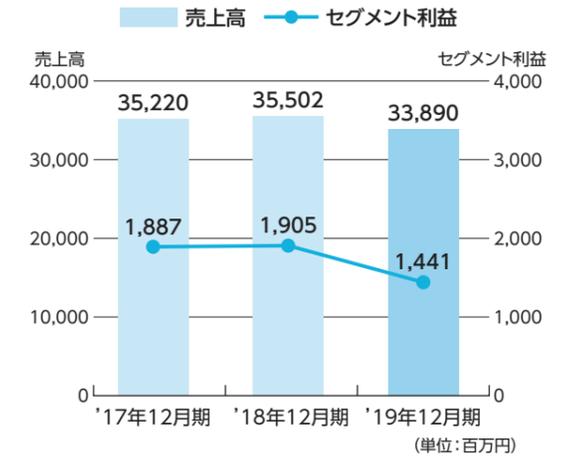
- 水系ウレタン樹脂等の機能ポリマー
- フッ素・シリコン等の工業用薬剤

売上高 **338億9千万円** 4.5%減

セグメント利益 **14億4千1百万円** 24.4%減

- ▶ ベトナム、バングラデシュ 繊維加工用薬剤市場開拓好調
- ▶ 業務用クリーニング薬剤 販売好調
- ◯ 中国市況、暖冬の影響により繊維加工用薬剤減収減益
- ◯ 自動車販売不調によるカーシート向け需要減少
- ◯ 対アジア通貨円高の影響

【売上高・セグメント利益の推移】



化粧品事業



美容室向け髪用化粧品

- 「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

ODM・OEM

- 髪用化粧品の相手先ブランド受託生産



一般通販

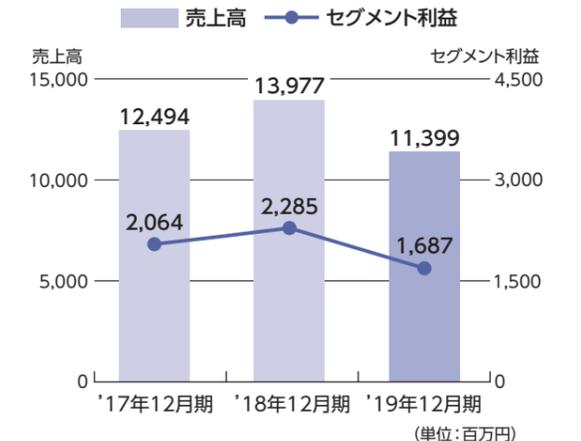
- フェイシャル基礎化粧品ブランド「アンサーージュ」のインターネットによる通信販売

売上高 **113億9千9百万円** 18.4%減

セグメント利益 **16億8千7百万円** 26.2%減

- ▶ 山田製薬 ODM(製造受託)事業新規獲得好調
- ▶ 国内デミ ヘアケア、ヘアカラー拡販で伸長
- ◯ 山田製薬 ODM(製造受託)事業大口顧客分大幅減収減益

【売上高・セグメント利益の推移】



※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。※%表示は前会計年度比です。



代表取締役社長
えもり やすまさ
江守 康昌

事業環境の変化が業績に影響及ぼすも 経営基盤を強化し、着実に事業を推進。

2019年12月期(第106期)の連結業績は、売上高461億9千1百万円(前連結会計年度比8.0%減)、営業利益13億9千5百万円(同39.4%減)、経常利益13億3千4百万円(同45.1%減)となりました。代表取締役社長・江守康昌が第106期の業績を振り返るとともに、2020年12月期(第107期)の展望について語ります。

化粧品ODM事業、米中貿易摩擦、暖冬などが影響

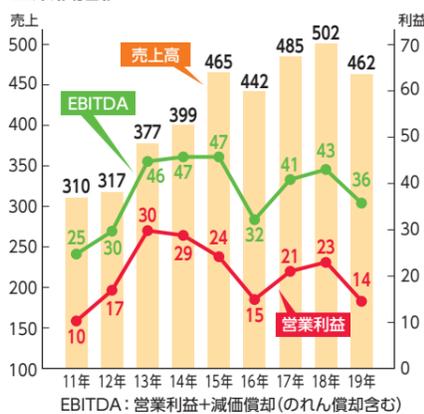
2019年12月期(第106期)は売上高が3年ぶりの減収、これに伴い営業利益・経常利益も減益となり、大変厳しい結果に終わったと受け止めています。減収減益の大きな原因となったのが、当社グループを取り巻く事業環境の変化です。

化粧品事業では、米中貿易摩擦も影響を及ぼした中国の景気鈍化や世界的な乗用車販売の不調により、主力である繊維加工用薬剤の需要が伸び悩みました。また、2018年の年末以降の暖冬により冬物衣料用の繊維加工が大幅に低下したことも大きく影響しました。中国で環境・安全規制が一段と強化され、化学工場や染色加工場の操業停止が相次いだことは、需要減に加え原材料調達コスト増にもつながりました。長

期経営計画「INNOVATION25」に基づき、経営基盤を固めるために整備した鹿島工場(※1)第2工場が稼働し、減価償却費が増加したことも利益減の要因となりました。

化粧品事業では、山田製薬(※2)が手がけるODM(※3)事業(化粧品製造受託事業)で、大口顧客の市場在庫が過多となっ

■業績推移(単位:億円)



たため受注が大幅に減少しました。デミ コリア(※4)では、日韓関係の影響でヘアケアなどの店販品(※5)の売上げが落ち込み、国内でも主力のデミが消費税増税後、予想以上に長引く消費マインド低下の影響を受けました。

このほか、化学品事業・化粧品事業とも対アジア通貨で円高に振れた為替の影響も減収減益の一要因です。しかしながら、「INNOVATION25」の達成に向け確実に経営基盤の構築を進められたと考えています。

以下、各事業の取り組みについてご説明します。

化学品事業は新拠点が相次ぎ竣工

化学品事業では昨年8月、将来の当社グループを担う重要戦略製品の一つである水系ウレタン樹脂(※6)のメイン生産拠点となる、鹿島工場第2工場が本格稼働しました。健康・環境に配慮する意識の一層の高まりを受け、水系ウレタン樹脂は有機溶剤を用いていないことから益々ニーズが高まっており、ビジネスチャンスが更に拡大すると見えています。

昨年10月にはニッカ コリア(※7)新工場が竣工しました(詳しくはP6をご覧ください)。これにより、繊維製品向けの撥水剤(※8)はもちろん、表面改質剤など今後デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展によって需要増大が期待できる高付加価値のフッ素化学品(※9)の増産体制が整いました。

また、インバウンドが好調だったことから、ホテル・病院などにシーツやタオルを貸し出すリネンサプライ事業者向けの業務用クリーニング薬剤の販売が好調でした(詳しくはP5をご覧ください)。

海外では、いずれも現地通貨で、ベトナムの売上高が前年比15.2%増、バングラデシュが同じく33.4%増と好調です。ベトナムは繊維産業が継続して大きく成長している市場です。一方、バングラデシュは昨年、不景気で繊維産業の業況も厳しかったので

すが、当社の技術力と営業力がお客様から高い支持を受け、成果を上げることができました。引き続き既存顧客の深耕、新規顧客の開拓に注力してまいります。



バングラデシュの縫製工場の様子

化粧品事業は国内デミが堅調

化粧品事業では、前述の通り消費マインド低下の影響を受けたものの、国内美容サロン向けのデミ コスメティクスで展開する主力ヘアケアブランド「フローディア」の販路拡大が順調に進みました。

また、ヘアカラーからホームケアまでトータルでカバーできるアイテムをそろえた「トレネージュ」、当社初のメンズブランド「エレベート」、よりきれいな色と特徴的なツヤ感を表現するヘアカラー「フュージョニスト」といった新商品を相次いで発売し、拡販が進んだことも売上げの伸長につながりました。

昨年まで二桁成長を続けていたデミ コリアは、前述のように店販品で苦戦しましたが、ヘアカラーの拡販に注力したことでカバーし、現地通貨ベースにおいてトータルでは売上げを伸ばすことができました。

大口顧客からの受注が減少した山田製薬においても、新規顧客・新規案件の獲得が大きく伸長しており、2020年12月期に向けた好材料と捉えています。

予測困難な状況のもと、ピンチをチャンスに

現在、世界中で新型コロナウイルスの影響が出ている状況であり、今後の当社グループの事業活動への影響の見通しについては、今なお把握が困難な状況が続いて

います。中国浙江省杭州市に本社機能を置く日華化学(中国)(※10)では、サプライチェーンが滞り、中国国内の移動制限もあって春節明けの操業開始を見合わせざるを得ませんでした。その後、2月17日から操業を再開し、現在は外部環境も整いつつあり通常操業まであと少しというところまで来ています。また、韓国大邱(テグ)市に工場を置くニッカ コリアにおいては、移動制限等の条件下ではありますが概ね通常操業ができています。しかし、欧米を中心に新型コロナウイルスの影響が甚大となっており、繊維関係の消費や生産についても大幅に減少しているだけでなく、日本においても人の集まりや不要不急の外出に対する自粛要請を受け、宿泊・飲食などのサービス業を中心に打撃を被っており、美容室業界でも来店客数が激減するなど当社の各事業にも大きな影響が及び始めています。この状況がいつまで続くのか全く予測が付きませんが、新型コロナウイルスによる影響が長期化すれば当社グループのみならず国内外の経済損失は膨らむ一方ですから、一刻も早く終息することを願うばかりです。一方、山田製薬においてはOEM(※11)の手指消毒剤の受注が激増していますが、容器調達の関係もあり業績への貢献は限定的と捉えています。

もちろん、この状況に手をこまねているわけではありません。ピンチをチャンスと捉え更なるコストダウンを徹底し、また、一部の部門で導入していたテレワークの対象者を大きく広げ、業務の効率化に繋がる社員の働き方の見直しを推進するなど、体質改善に取り組んでいます。

環境志向、DX加速を「成長期」の追い風に

冒頭に挙げた当社グループを取り巻く事業環境は、今後ますます変化していくでしょう。この変化にいち早く対応すべく、当社ではサーキュラー・エコノミー(循環型経済)の進展に対応した環境配慮型の製品、あるいは次世代通信規格である5GやDXに関連する技術と製品の開発、販促を加速させ、



水系ウレタン樹脂のメイン工場として2019年8月より本格稼働した鹿島工場第2工場

新たな需要を取り込んでいきたいと考えています。

前述の通り、2020年の中盤以降から、有機溶剤を使用したウレタン樹脂から鹿島工場第2工場で製造する水系ウレタン樹脂に対する需要が急増すると予想しており、この分野を当社の大きな成長エンジンに育てるため、事業拡大に邁進します。

また、繊維産業全体の大きな課題の一つである環境負荷低減に向けては、省エネや節水、作業環境改善につながるソリューションを「SMART DYEING PROCESS」と名付けて提案しています。既に昨年からの取り組みをスタートしており、今期はこの分野での売上げ倍増を目指しています。

大智化学産業(※12)のクーラント剤(※13)は、水系で環境に優しく安全性に優れ、しかも、使用済みのクーラント剤を納入先から回収し、リサイクルしてまた販売するという循環型ビジネスモデルが大きな特長となっています。現在は国内での販売が主ですが、半導体需要は世界中で高まっていますから、グローバル展開に注力しているところです。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2022年度を最終年度とする新中期経営計画の公表は延期しておりますが、2020年12月期(第107期)は長期経営計画の中で「成長期」の初年度となります。2020年は過去に類を見ない逆風が吹いており極めて厳しい状況となっておりますが、このような環境下であっても、社会の変化に対応した新事業を成長させるため全社一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆様には引き続きのご支援をお願い申し上げます。

用語解説

- 【※1】鹿島工場 鹿島臨海工業地帯の一角(茨城県神栖市)にある非イオン界面活性剤などの中核工場。グループ会社などが買収した100%子会社。ヘアケア会社などへの原料生産拠点としての役割も担っています。
- 【※2】山田製薬 1910(明治43)年創業(本社:東京都中央区)。1995(平成7)年に当社が買収した100%子会社。ヘアケア、スキンケア、口腔ケア、消毒剤等の受託製造販売を手がけています。
- 【※3】ODM Original Design Manufacturingの略で、相手先のブランドで当社が製品のレシピをはじめとした製品設計から製造までを担当すること。
- 【※4】デミ コリア 2012(平成24)年、韓国に設立した100%子会社。韓国美容室市場でデミ コスメティクス商品を販売しています。
- 【※5】店販品 店頭販売商品の略で、シャンプー、トリートメント、スタイリング剤などの美容室専売品のこと。
- 【※6】水系ウレタン樹脂 人工皮革、塗料、接着剤などで使用されるウレタン樹脂は溶剤系、水系に大別でき、環境負荷低減のために水系品が求められています。
- 【※7】ニッカ コリア 1971(昭和46)年、韓国に設立した子会社で、撥水撥油剤で高い市場シェアを誇ります。
- 【※8】撥水剤 繊維加工工程の中で、繊維に水分をはじく機等の製造設備で使用される潤滑油・グリースをはじめ、スマートフォン・レンズ用の防汚剤など特殊な用途で使用される材料。
- 【※9】フッ素化学品 精密機器・半導体・ディスプレイ等の製造設備で使用される潤滑油・グリースをはじめ、スマートフォン・レンズ用の防汚剤など特殊な用途で使用される材料。
- 【※10】日華化学(中国) 2002(平成14)年、中国浙江省杭州市に設立した子会社。中国市場において薬剤の製造販売を主に手がけ、一部研究開発も行っています。
- 【※11】OEM Original Equipment Manufacturingの略で、相手先のブランドで、支給されたレシピに沿って製品を製造すること。
- 【※12】大智化学産業 1966(昭和41)年創業(本社:東京都中央区)。2015年に当社が買収した100%子会社。半導体ウェハーなどの加工用水系クーラント剤のトップメーカー。
- 【※13】クーラント剤 半導体ウェハーなどの製造加工で、切断の際の摩擦抵抗を抑える薬剤。油性が主流でしたが、引火性の問題などがあり、大智化学産業が他社に先駆けて水溶性製品を開発しました。

薬剤から工場設備まで総合的に提供。 お客様の「使い勝手」を追求し支持を獲得。

「リネンサプライ」とは、シーツ、タオル、クロス類等の繊維製品(リネン)を、ホテルやレストラン、病院等に貸し出し(サプライ)、使用後に回収・洗濯仕上げをする、リースとクリーニングの複合サービスのことで(※下記イラスト参照)。日華化学では、リネンサプライ工場で使用される洗剤や仕上げ剤などの薬剤を開発・販売するほか、グループ会社と連携して洗浄工程の効率化を促進する設備やシステムも提供し、さらなるシェアアップを目指しています。開発・営業の最前線に立つ二人に話を聞きました。



(一社)日本リネンサプライ協会HPより抜粋

「現場の声」を開発に生かす

当社は1941年の創立以来培った繊維業界での経験と技術を生かし1958年にクリーニング分野に参入しました。「ホームクリーニング」と呼ばれるクリーニング店で使われる業務用洗剤をメインにスタートし、シェアトップへと成長しました。さらに、2003年にはリネンサプライ市場に本格参入し、東京・大阪・名古屋の全国3エリアにおいて「リネン技術発表会」を企画開催、好評を得ることができ、これを機にリネンサプライ業界でも当社の認知度が高まりました。

リネンサプライでは後発となる当社ですが、長年に及ぶ繊維加工用薬剤の知見を武器に、現場の意見やニーズに応じていくことで市場開拓を進め、大手顧客からの信頼を積み上げてきました。最初にヒット商品となったのは、強力な洗浄力を発揮する「再洗い」専用洗剤です。リネンサプライ工場では大型の機械で繊維製品をまとめて大量に洗浄します。通常の洗剤では汚れが落とされなかった場合にもう一度機械に入れて洗うことを「再洗い」といいますが、再洗いでも汚れが落ちなければその工程を繰り返すか、あるいはその繊維製品を破棄することになります。洗浄回数を減らすことは繊維製品の劣化防止やコスト削減に直結するため、1回の再洗いで確実に汚れを落とす当社の製品は高く評価され、一気にシェアを拡大しました。さらに、繊維加工用薬剤の技術を応

用して開発した防汚加工剤は、油汚れに弱いポリエステル繊維の汚れを次の洗濯の際に容易に落とせると大変好評を得ました。これらの薬剤は、発売から今に至るまで変わらず多くのお客様にご支持いただいています。

グループシナジーで提案の幅を拡大

薬剤開発においては高機能・環境配慮はもちろん、お客様にとっての「使い勝手の良さ」という付加価値に留意しています。この考え方が、リネンサプライ工場における省力化の新提案につながっています。

リネンサプライ工場では洗浄設備で使用する複数の薬剤をそれぞれの専用タンクに手動でセットし、目視での定期的な薬剤残量の確認が必要でした。一方、作業者の高齢化が進み、人手不足・安全管理への対応が急務となっています。これを受け当社では工場の自動化・省力化を支援するため、薬剤の「自動投入機」を開発しました。また工場によって洗浄設備や取り扱う繊維製品が異なるため、自動投入に適した液体薬剤のラインナップも強化しています。加えて近年は薬剤の投入を含め、工場各所に設置された薬剤タンクの残量の監視・管理を遠隔で一元的に行う「薬剤集中管理システム」を、グループ会社の江守エンジニアリング(※)と連携し開発・提案しています。

薬剤とシステムはそれぞれ別の会社が請け負うリネンサプライ業界にあって、当社は他社に先駆けてその両方をワンストップで提供し差別化を図り、トラブル時も包括的に



薬剤集中管理システムで、タンク内の薬剤残量を遠隔監視。複数の工場を一元管理することも可能



化学品部門
クリーニング&メディカル事業部
リネン推進グループ リーダー

大橋 正幸



界面科学研究所
クリーニング開発グループ
サブリーダー
あづ た

吾田 圭司

対処できるなど、お客様の負担軽減に貢献しています。自動投入機は現在までに100件を超える導入実績があり、新たな薬剤集中管理システムについても、「タンクの巡回時間が大幅に減った」「一日の薬剤使用量が管理でき便利」など好評を得ており、さらなる導入を見込んでいます。

私たちが目指すのはお客様に真っ先に「日華化学に相談しよう」と思っただけの存在になることです。実際に、自動投入機や薬剤集中管理システムを手がけてからは、工場の計画段階からお客様にお声がけいただくことが増え、当社への期待がより大きくなってきていることを実感しています。

リネンサプライのサービスはさまざまな業界で採用されていますが、当社ではホテルリネン、食品工場を中心にユニフォームの衛生管理のニーズが高まっている産業リネンの3分野に注力しています。さらに、環境配慮の面から、将来的にはリネンサプライ業界全体が薬剤の使用量を可能な限り抑える方向に進んでいくことは間違いありません。そこでは、汚れが落ちやすい繊維製品の開発・加工から携わっていく、という当社ならではのアプローチが優位性を発揮できると自負しています。

当社は現在、ホームクリーニングとリネンサプライを合わせたクリーニング業界向け薬剤で国内シェアナンバーワンを誇ります。リネンサプライに限定するとシェアは約15~16%ですが、2025年には30%にまで伸ばし、リネンサプライ単独でもトップの座を狙います。今後もグループトータルの技術力を生かして、他社との差別化を図りながらお客様のサポートに努めてまいります。

※江守エンジニアリング

1995年創業(本社:当社敷地内)。2015年に買収した当社子会社。主に工業用で使われる各種システム・設備の設計・販売から、施工・据え付け保全業務等を手がけています。

韓国子会社ニッカ コリアに新工場が竣工。 需要の高まるフッ素化学品の増産体制を構築。

2021年に創立50周年の節目を迎える当社韓国子会社ニッカ コリアにおいて、2019年10月新工場が竣工しました。繊維加工用薬剤の開発・生産でスタートした同社は、日華化学グループの重要拠点のひとつとして業容を拡大し、新工場ではフッ素化学品のマザー工場として、従来からの主力製品である撥水撥油剤(※)のほか、需要の高まる機能性フッ素化学品の増産体制を整えました。名誉会長の金と社長の森下に、新工場設立の経緯と、50周年の節目を迎えるにあたっての思いを聞きました。

※…繊維加工工程の中で、繊維に水分や油分をはじく機能性を付与する加工薬剤

これまでの歩み

ニッカ コリアは、繊維加工産業が人件費等の関係で日本から韓国や台湾に移り始めた1971年に、韓国の三慶物産(現KOLON社)と当社との合弁会社として誕生しました。合成繊維の加工産地である大邱(テグ)市に工場があり、本社はソウルに置いています。

1991年からは国家プロジェクトとして、韓国の国立研究機関である韓国化学研究院との間で研究テーマの探索から技術開発、工業化(事業化)に至るまでの全プロセスに関して共同研究を進め、実績を築いてきました。「若手を中心に、合成から工場設備設計まで担える人材が社内に育っていることが当社の大きな強みであり、機能性化学品の合成でオンリーワンの技術を複数確立しています」(金)。

韓国撥水剤市場でトップシェア

同社が創業以来手がけている主力製品が繊維加工用薬剤です。上述の通り、韓国の国家プロジェクトとして開発を進めてきた研究テーマの中でも、特にフッ素系撥水剤はそれまで韓国では100%輸入に依存していましたが、同社が国産化を果たした経緯があります。現在は、韓国における繊維加工用撥水剤市場において約30%のシェアを占めており、トップシェアを誇っています。

撥水剤については近年、環境への残存性が懸念される物質を含むとして、世界的なアパレル・スポーツ用品ブランドを中心に「フッ素フリー」への転換が進んでいますが、当社グループはこうした動きが広がる前から



ニッカ コリアの全景。左に見える5階建ての建物が新工場です

フッ素フリー系撥水剤の製品開発・生産技術開発に取り組んできました。当製品の生産技術開発においてはニッカ コリアと日華化学本社が連携して工業化を実現し、現在当社グループ内でのメイン生産はニッカ コリアが担い、中国、アメリカ、台湾などのグループ海外各拠点に加え、メキシコ、インドなどのお客様を含め、10か国以上に製品を供給しています。

社長の森下は「ニッカ コリアは韓国に根付いて50年近くの歴史があり、メイド・イン・コリアのブランド力が強みになっています」と話し、同社のフッ素系、フッ素フリー系いずれの撥水剤とも、優位性の高い技術として市場に受け入れられています。

フッ素化学品で新市場開拓をめざす

繊維加工用撥水剤の技術を応用するかたちで、現在新規事業として力を入れているのがフッ素化学品です。フッ素化学品は、韓国の主力産業である精密機器・半導体・ディスプレイ等の製造設備で使用される潤滑油・グリースをはじめ、化学薬品耐性や高温耐性に優れたスマートフォンやレンズなどに使用される防汚剤といった特殊な用途で使用される材料です。フッ化水素、フッ化ガス等の無機化学とは違い、有機化学であるフッ素化学品の生産を行っている企業は大変少なく、同社は独自の技術開発に成功し、韓国国内ではこのような特殊用途向けとして唯一のフッ素化学品の生産工場となっています。

フッ素化学品の需要は、デジタルトランスフォーメーションの潮流とともに世界的に高まっています。特に通信網の5G化により、IoTやAIなどのデジタル技術の進化が加速し細分化されることで、新規ニッチ市場が数多く生まれてくると予想され、高付加価値なフッ素化学品と、繊維加工用薬剤市場で培ったお客様の要望にお応えするソリュー



NICCA KOREA CO., LTD.

代表理事名誉会長
キム キョンジェ
金 敬裁

代表理事社長
森下 喜幸



工場の竣工式では、大邱広域市の李副市長にもご出席いただきました。地域からも大きな期待を寄せられています

ション提案を両輪として、新たな市場開拓が期待されます。

変革のスタートラインに

今回の新工場の建設は既存の撥水剤市場を深堀りし、さらにフッ素化学品の新市場開拓に向けた増産体制を構築するという狙いがあります。

新工場竣工後の生産能力は旧工場の1.3倍となる年14,000トン。ニッカ コリアの売上計画では、2018年実績の約36億円から、2025年には約60億円を見込んでいます。当社グループ内の他工場では行わないような難易度の高い反応を必要とする工場であることから、安全性向上と効率化のため、原料投入から反応管理までほぼ自動化された設備としており、24時間連続稼働体制を実現しています。

日華化学グループの長期ビジョン「INNOVATION25」において、フッ素化学品は重要戦略製品のひとつに位置づけています。会長の金はニッカ コリアのこれまでの歩みを振り返り、「当社が今日、日華化学グループにおいてフッ素化学品のマザー工場としての役割を担っていることは、非常に誇らしいこと」とし、「グループ各社と連携し、また韓国の強い輸出産業と連動して、グローバルに市場拡大していきたい」と展望を力強く語りました。

【名称】 NICCA KOREA CO., LTD.
【資本金】 80億7,969万ウォン(約7億4,500万円)
【本社】 大韓民国 ソウル特別市中区武橋路6
今世紀ビル8F
【従業員数】 112名(2019年12月31日時点)